

平成 23 年度 先導的大学改革推進委託事業  
「諸外国における獣医師養成制度に関する調査研究」

調査訪問大学名： コペンハーゲン大学生命科学学部（デンマーク）  
調査訪問時期： 平成 23 年 5 月 19 日（木）～ 平成 23 年 5 月 20 日（金）（2 日間）  
調査訪問者氏名： 橋本善春  
訪問時の対応者名： Prof. Dr. Grethe Bertelsen, Vice-Chancellor for Education  
Prof. Dr. Peter Holm, Director of Veterinary Studies  
Prof. Dr. Susanne N. Olsen, Large Animal Hospital  
Prof. Dr. Eiliv Svalastoga, clinic for Small Animals  
Prof. Dr. Thomas Eliksen, Clinic for Small Animals  
Assic. Prof. Dr. Vibeke Dantzer, Dept. of Histology & Embryology

【コペンハーゲン大学生命科学学部の沿革】

コペンハーゲン大学生命科学学部（LIFE）の歴史は 1773 年に創立されたかつての王立獣医科大学に始まる。現在 LIFE は同国唯一の獣医学部門を含む 9 つの研究教育部門、16 の農学系修士課程および博士課程をからなる学部・大学院であり、教職員数 1,800 名、大学院学生を含む学生数 3,600 名からなる。キャンパスはコペンハーゲン市内およびその近郊 20km に位置する 4 つのキャンパスからなる。獣医学関係の 13 研究施設は市内の Frederiksberg キャンパス（16ha）にあり、大動物クリニックは隣接地区 Staastrup（175ha）に位置する。

本生命科学学部の使命は、コペンハーゲン大学が食品科学、獣医学、および自然資源に関する研究分野でヨーロッパをリードする 3 大学の一つとして、その役割と強みを維持・発展させて行くことにある。そのために 2007 年 1 月にそれまでの王立獣医科大学、農科大学、および薬科大学が統合されて今日のコペンハーゲン大学生命科学学部（Faculty of Life Sciences, LIFE）となった。

【獣医学教育の特色】

2009 年に LIFE の獣医学領域は、すでに EAEVE の Accreditation に合格している獣医学教育に関して AVMA（全米獣医師会）の Accreditation 取得を目指すことを決定し、同年 9 月に同獣医学領域への AVMA の site visit を受け入れ、2011/2012 における AVMA の Full Accreditation 取得を申請するに至った。

【学部教育】

LIFE における獣医学領域は以下の 4 つの Department からなる：1) The Department of Basic Animal Veterinary Sciences, 2) The Dept. of Veterinary Disease Biology, 3) The Dept. of

Large Animal Sciences, and 4) The Dept. of Small Animal Clinical Sciences.

LIFE の獣医学領域への入学者は、Upper secondary education (12-13 年目教育、高校レベル)を終えた後、3 年制の Bachelor's programme (180 単位)で学び、その後 2 年半の Master's programme (150 単位)に進学する。希望者はその後 3 年の研究プログラム (PhD) に進むことができる。各学年はそれぞれ 9 週間からなる 4 つのブロック (各 15 単位) に分けられ、各ブロックでは 1~2 コースからなる。このブロック構造は留学生が彼らの滞在学习計画をより柔軟性のあるものになっている。

LIFE の獣医学領域への入学者は、Upper secondary education (12-13 年目教育、高校レベル)を終えた後、3 年制の Bachelor's programme (180 単位)で学び、その後 2 年半の Master's programme (150 単位)に進学する。希望者はその後 3 年の研究プログラム (PhD) に進むことができる。各学年はそれぞれ 9 週間からなる 4 つのブロック (各 15 単位) に分けられ、各ブロックでは 1~2 コースからなる。このブロック構造は留学生が彼らの滞在学习計画をより柔軟性のあるものになっている。

Year/ veterinary programme	Block	Courses	
Year 1 BSc	1	Veterinary introductory course (7.5 ECTS)	Veterinary chemistry and biochemistry (7.5 ECTS)
	2	Cell biology, general histology and genetics (15 ECTS)	Veterinary anatomy and physiology 1 (15 ECTS)
	3		
	4	Veterinary anatomy and physiology 2 (15 ECTS)	
Year 2 BSc	1	Immunology, general pathology and pathophysiology (15 ECTS)	
	2	Pharmacology, toxicology and pharmacy (7.5 ECTS)	Infection microbiology (15 ECTS)
	3	Biostatistics and epidemiology (7.5 ECTS)	
	4	Nutrition and breeding (7.5 ECTS)	Microbial food safety (7.5 ECTS)
Year 3 BSc	1	Special pathology and poultry diseases (15 ECTS)	Basic clinical theory, small animals (7.5 ECTS)
	2		Basic clinical theory, large animals (7.5 ECTS)
	3	Herd health and public health (7.5 ECTS)	Veterinary paraclinics – 1 (7.5 ECTS)
	4	Veterinary jurisprudence and ethology (5 ECTS)	BSc project (10 ECTS)
Year 4 MSc	1	Small animal medicine, surgery and reproduction (15 ECTS)	Large animal medicine, surgery and reproduction (15 ECTS)
	2		
	3	Practical herd health consultancy and meat inspection (7.5 ECTS)	Veterinary paraclinics 2 (7.5 ECTS)
	4	Veterinary imaging (7.5 ECTS)	Emergency, obstetrics, critical care, clinical anaesthesiology (7.5 ECTS)
Year 5 MSc	1	Large animal general clinical practice (15 ECTS)	
	2	Small animal general clinical practice (15 ECTS)	
	3	Differentiation courses (26.5 ECTS): • Equine clinic • Advanced companion animals • Herd health and veterinary public health • Biomedicine	Veterinary jurisprudence and assessment of animal welfare (3.5 ECTS)
	4		
Year 6 MSc	1	MSc thesis (30 ECTS)	
	2		

Figure 4.2: Overview of the veterinary BSc and MSc curriculum 2009  
Legends: BSc courses (grey) are elective, but compulsory for students enrolling on the veterinary MSc programme.  
Courses surrounded by arrows rotate within the four blocks involved.

**Table 4.1a: Training hours and workload within the compulsory veterinary curriculum**

Year	Hours of training							Total training hours	Course preparation	Total student workload
	Theoretical training			Supervised practical training						
	Lectures (A)	Seminars (B)	Self-directed learning (C)	Laboratory and desk-based work (D)	Non-clinical animal work (E)	Clinical work (F)	Other (G)			
1st	301	16	50	246	136	0	26	775	874	1,649
2nd	294	0	19	384	4	0	34	735	912	1,647
3rd*	298	0	0	464	96	23	24	904	749	1,653
4th	282	39	80	67	108	431	21	1,028	653	1,681
5th#	20	0	6	7	0	528	12	573	278	851
6th□	0	0	550	91	91	91	2	825	0	825
<b>Total</b>	<b>1,195</b>	<b>55</b>	<b>705</b>	<b>1,259</b>	<b>435</b>	<b>1,073</b>	<b>119</b>	<b>4,840</b>	<b>3,465</b>	<b>8,305</b>

\* Including BSc thesis, 10 ECTS, # Excluding elective tracking course, 26.5 ECTS, □ Including MSc thesis, 30 ECTS

**Table 4.1b: Curriculum hours in years 5 and 6 and for the full programme for students following the Advanced companion animal tracking programme<sup>a</sup>**

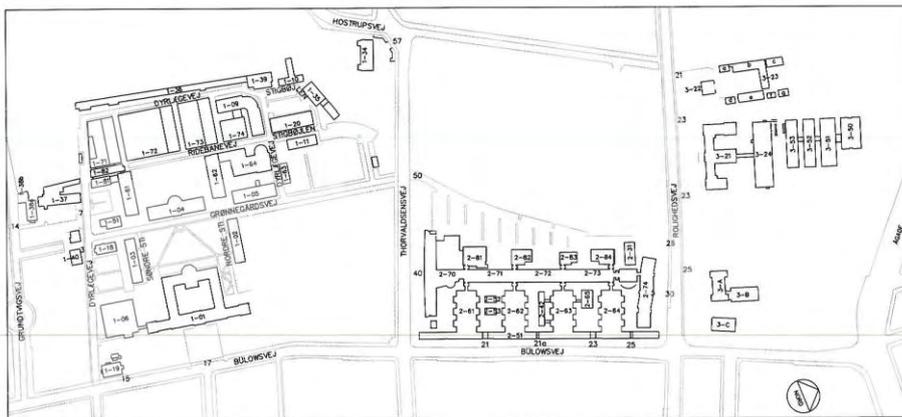
Year	Hours of training							Total training hours	Course preparation	Total student workload
	Theoretical training			Supervised practical training						
	Lectures (A)	Seminars (B)	Self-directed learning (C)	Laboratory and desk-based work (D)	Non-clinical animal work (E)	Clinical work (F)	Other (G)			
5th#	20	0	6	37	0	958	12	1,033	568	1,601
6th□	0	0	550	91	91	91	2	825	0	825
<b>Full*</b>	<b>1,195</b>	<b>55</b>	<b>705</b>	<b>1,289</b>	<b>435</b>	<b>1,503</b>	<b>119</b>	<b>5,300</b>	<b>3,755</b>	<b>9,055</b>

<sup>a</sup> Course hours for the specific tracking programme are shown in Table 4.3, # Including compulsory course

□ Including MSc thesis, 30 ECTS, \* Including years 1 to 4

## 【教育施設】

Det Biovidenskabelige Fakultet  
Bygningsafdelingen



Department of Basic Animal and Veterinary Sciences: 1-04, 1-51, 1-61  
Department of Veterinary Disease Biology: 1-05, 1-08, 1-11, 1-20, 1-35, 1-39, 1-62, 1-74  
Department of Large Animal Sciences: 1-03, 1-18  
Department of Small Animal Clinical Sciences: 1-71, 1-72, 1-82, 1-83

OVERSIGTSKORT

Frederiksberg, område 1, 2 og 3 / målt: 1.3500 / 21.05.10. PEA

## 【獣医学生】

コペンハーゲン大学では同国以外のヨーロッパ諸国からの学生の入学を歓迎している。現在 875 名の留学生が在籍しており、今後の増加が見込まれている。また 35 カ国から 250 名の交換留学生が学んでいる。

すべての EU 加盟国からの学生は授業料の支払いが免除されており、デンマーク政府が支出している。EU 加盟国以外からの学生は年額 105,000DKK/14,000EUR (145 万円、2012 年 2 月現在) が授業料の支払い必要年額となる。しかしこれら国外から MSc Degree Programme に進む学生には、自動的に奨学生となるか授業料が免除されるシステムがある。デンマークで学生生活を送る場合、住居などの状況にもよるが平均して約 9 万 6 千円/月が必要である。

## 【調査結果】

### 3) 海外諸国における獣医科大学の一般的な設置・運営状況。

#### ① 生命科学大学の規模 (動物病院も含む) :

スタッフ (FTE 換算) : 教員数 : 269.5 (男女比) \_\_\_\_、外国人教員数 : \_\_\_\_  
(教授 28.5、准教授 59.2、助教 42.8、その他 149)

サポーティングスタッフ数 : 事務職員 48.4、技術職員 269.5

学部学生 : 昨年度志願者数 610、入学者数 191 (男女比\_\_\_\_、州外生\_\_\_\_、  
外国人留学生\_\_\_\_)、学部総数 1028 (男女比 110 : 918、  
外国人留学生 394)

大学院学生 (PhD) : 昨年度志願者数\_\_\_\_、入学者数 34 (男女比\_\_\_\_、州外生\_\_\_\_、  
外国人留学生\_\_\_\_) 院生総数 84 (男女比\_\_\_\_、外国人留学生 14)

施設 : 建物の総面積 (概算) : 132,000 m<sup>2</sup>、実験動物飼育施設 (面積、収容動物数の概算) 研究施設 (面積\_\_\_\_、収容動物数\_\_\_\_)、非密封 RI 用施設 (面積) \_\_\_\_、図書施設 (収容人数\_\_\_\_、冊数\_\_\_\_)、講義室 (数 44 室、17 - 293 席) 実習室 (数 20 室、8 - 95 席)、自習室 (数\_\_\_\_、収容人数\_\_\_\_)、その他 (グループワーク室 50 室)、教育支援コンピューター室 (数、収容人数\_\_\_\_)、大学キャンパス外の教育支援施設の有無\_\_\_\_

教育研究運営資金の調達 : 総額€ 55,440,000

国 (州など) (金額もしくは比率) €43,730,000、競争的資金 (金額もしくは比率)、企業からの受託研究 (金額もしくは比率) \_\_\_\_、寄付金 (金額もしくは比率\_\_\_\_)、自己運用資産 (金額もし

くは比率\_\_\_\_\_)

## ② 動物病院

動物病院の規模：

スタッフ：教員数\_\_\_\_\_（大動物 8、小動物 57）レジデント数\_\_\_\_\_、サポーター  
リングスタッフ数（事務職員 21、技術職員 73）、大動物診療室（数）  
10、小動物診療室（数）11、年間外来診療件数（牛 180、馬 1060、  
犬 7,962、猫 2,334、エキゾチックアニマル 643）、年間入院件数（犬  
1,929、猫 775、エキゾチックアニマル 131）内科系処置室（数）\_\_\_\_、  
外科手術室（数 7）、集中治療室（数）\_\_\_\_、救急獣医療施設の有無  
○、その他\_\_\_\_

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置○、超音波画像診断装置○、X線断  
層撮影装置○、X線照射装置○、MRI○、内視鏡検査システム○、  
核医学システム○、屋外運動場/プール\_\_\_\_、跛行検査場\_\_\_\_

診療科の分野の有無：内科○、栄養科○、皮膚科○、脳神経科○、  
眼科○、歯科○、外科○、腫瘍科○、麻酔科○、  
病理科○、画像診断科○、鳥獣・爬虫類○

財務内容（年間）： 寄付金（金額）\_\_\_\_、診療売上金（金額）€ 5,770,000

診療業務への学生参加：有無\_\_\_\_（大学病院\_\_\_\_、大学病院外\_\_\_\_：例えば、シ  
ェルターや一般の動物病院での実習）

社会へのサービス体制：分院の有無\_\_\_\_（目的：大動物臨床等）

診療車の有無\_\_\_\_（目的：救急や大動物臨床等）

## 2) 教育課程：

教育年限：入学要件と終了要件（最低在学期間 5.5 年）

教育内容：カリキュラム（基礎獣医学、病態獣医学など）

教育時間数：単位数 330、可能であれば時間数\_\_\_\_\_

特例措置：（ダブルディグリー等、例えば DVM+Master of Veterinary Public  
Health など）不明

修士課程： 獣医師養成課程の後半 2.5 年が MSc に相当する。

博士課程：（専攻、年数など；3 年間の期間で自分の研究テーマに合うコース  
をいくつか選択する（合計 30 単位）。たとえば Infection Microbiology（15  
単位）、Laboratory Animal Science（9 単位）など）

教育に用いる言語：デンマーク語、英語

その他：日本と異なる特別な科目等\_\_\_\_\_

学生への支援体制：

授業料：（自国学生、EU内留学生 無料、EU外留学生 €14,000/年）

授業料免除制度\_\_\_\_\_、宿舍の有無○（キャンパス外に設置）

奨学金制度の有無（国○、私立○）

留学生のための支援部署の有無\_\_\_\_\_

3) ① 昨年の就職状況：

職種：大動物臨床\_\_\_\_、小動物臨床\_\_\_\_、公務員（農林省管轄\_\_\_\_、厚生省管轄\_\_\_\_）、民間企業\_\_\_\_（製薬会社など）、PhD 5%、その他\_\_\_\_

② 卒後研修：卒後研修に関するプログラムの有無\_\_\_\_\_（無の場合：獣医師会が実施？）

卒後制度の内容：大学動物病院の利用の有無\_\_\_\_\_、（利用料金の有無\_\_\_\_\_）

4) 大学の特色もしくは教育研究で重要視している点は何か？

⑦ 国際的な獣医学教育の認証システムの有無：有

⑧ 平成21年10月に行われたOIE主催による世界の獣医学部長会議の方針への対応：対応

⑨ 大学の特色および教育研究の重要課題最近強化・改善した教育内容

- ・ 新型インフルエンザに関連した教育 ○
- ・ 食の安全に関する教育 ○
- ・ 人獣共通感染症に関するリスク解析と管理 ○
- ・ 海外悪性動物感染症に関するリスク解析と管理 ○
- ・ 遺伝子組み換え動植物に関する食品の安全性確保 ○
- ・ 微生物汚染や化学物質汚染に関する食品の安全性確保 ○
- ・ アニマルウェルフェアに関する取組み ○
- ・ 野生動物の保護管理に関する取組み ○
- ・ 動物実験に関する取組（AAALAC認定など）○
- ・ その他\_\_\_\_\_

【コペンハーゲン大学生命科学学部獣医学領域 写真資料】



Prof. G. Bertelsen (教育担当副学長と)



附属図書館



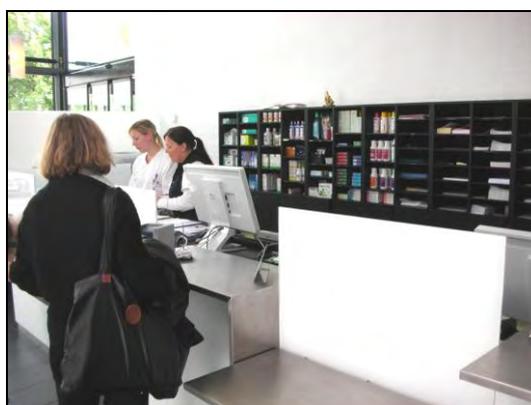
解剖学講座標本館



Prof. Dantzer と組織学実習室



コペンハーゲン大学動物病院にて



小動物クリニック受付



小動物診療室



ぬいぐるみ模型を用いた外科実習室



昇降する小動物入院舎



小動物病院検査室



Prof. Olsen (大動物病院長) とともに



大動物病院カンファレンス室



大動物病院の臨床講義室



大動物臨床実習風景



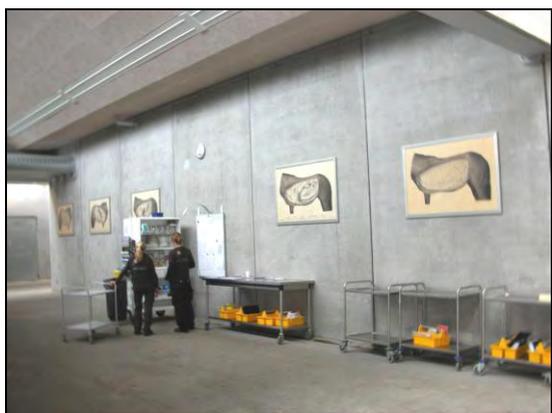
蹄鉄工場で働く技術職員



馬の臨床実習と女子学生達



臨床実習を指導する教員と女子学生達



馬の臨床施設を見る

平成 23 年度 先導的大学改革推進委託事業  
「諸外国における獣医師養成制度に関する調査研究」

調査訪問大学名： ヘルシンキ大学獣医学部（フィンランド）  
調査訪問時期： 平成 23 年 5 月 23 日～平成 23 年 5 月 24 日（2 日間）  
調査訪問者氏名： 橋本善春（北大獣医学研究科）  
訪問時の対応者名： Prof. Dr. A. Sukura, Dean, Faculty of Veterinary Medicine  
Prof. Dr. M. Ruohoniemi, Vice-Dean, Education  
Prof. Dr. R.-M. Tulamo, Dept. of Equine and Small Animal  
Medicine  
Dr. J. Anttila, Director, Veterinary Teaching Hospital  
Dr. J. Koivisto, Planning Officer for International Affairs

【ヘルシンキ大学獣医学部の沿革】

ヘルシンキ大学は 9 つの学部からなっており、獣医学部はフィンランド国内で唯一の獣医養成機関である。獣医学部は当初独立した単科大学であるフィンランド獣医科大学として創設されたが、1995 年にヘルシンキ大学に所属する学部となった。その後 2004 年に現在の市郊外約 25km に位置する Viikki キャンパスに移設され、このキャンパス内に小型動物および馬のための充実した大型診療施設が設けられ、ヘルシンキ市内および市近郊一円からの動物を対象として獣医学教育が行われている。牛など産業動物のための病院は市中心から 45km の郊外にある Mantsala に設けられている。

【獣医学教育の特色】

ヘルシンキ大学獣医学部は 4 つの Department (Biosciences, Food Hygiene, Equine and Small Animal Medicine, Production Animal Medicine) および付属動物病院 (Veterinary Teaching Hospital) を擁している。同学部の教職員数は 130 名からなり、部門管理者 9 名、獣医師 36 名、動物看護師 90 名が働く。4 年次学生は 65 名、5 年次学生は 46 名が在籍し、このほかにスペシャリストとして教授や臨床部門の教員が学部の専門研究教育に参加している。

年間の学部運営予算額は、主に教育省およびヘルシンキ大学の基金から措置されるおよそ 3 M ユーロ（約 3 億 3 千万円）、および同国の畜産分野や社会からの寄付金、動物病院からの診療収入などからなるビジネス収入が 6M ユーロ（約 6 億 6 千万円）を合わせたものである。

【学部教育と教育施設】

臨床獣医学教育の充実に力点を置いており、動物病院施設のうち小動物および馬の診療

施設には救急診療部門が設けられており、これらの施設は 356 日 24 時間稼働している。その教育環境の中でポリクリ訓練がほぼ常時行われている。2010 年における動物の来院数は、約 17,000 頭に上り、そのうち 80%が犬で他の 20%を猫が占める。馬と牛の来院数はそれぞれ 2,800 頭、および 8,700 頭である。

#### 【獣医学生】

2010 年の学部学生数は 421 名、大学院学生 79 名、専門医コース学生 120 名が在籍する。学生の将来の進路として以下が挙げられる。1) 動物の健康維持と福祉分野：伴侶動物、中小動物、産業動物、および馬の診療分野など。2) 人の健康推進分野：食品衛生や生活環境からの影響分析などの研究。3) 公衆衛生行政分野：社会および厚労省や EU 域内の協調的政策実現。4) ヘルシンキ大学ほかの研究教育機関での教職員として貢献する。5) ビジネスライフ：食品や医薬品会社で働く。その他多くの獣医師が動物病院を開業している。獣医臨床分野や公衆衛生分野での労働環境や待遇改善が進められており、女子獣医師の多くが結婚後もその職場で長く活躍できる環境が整備されて来たことも、女子学生が獣医学部を目指す要因の一つに挙げられる。

#### 【調査結果】

##### 4) 海外諸国における獣医科大学の一般的な設置・運営状況。

###### ① 獣医科大学の規模（動物病院も含む）：

スタッフ（FTE 換算）： 教員数：173.11（男女比）\_\_\_\_、外国人教員数：\_\_\_\_  
（教授 21.92、准教授 34.93、助教 24.35、その他 91.91）

サポーティングスタッフ数：事務職員 26.55、技術職員 110.94

学部学生：昨年度志願者数 635、入学者数 72(男女比\_\_\_\_、  
外国人留学生\_\_\_\_)、学部総数 408（男女比 34：374、  
外国人留学生 0）

大学院学生：昨年度志願者数\_\_\_\_、入学者数 14(男女比\_\_\_\_、  
外国人留学生\_\_\_\_) 院生総数 88（男女比\_\_\_\_、  
外国人留学生 13）

施設： 建物の総面積（概算）：22,243 m<sup>2</sup>、実験動物飼育施設（面積、収容動物数の概算）研究施設（面積\_\_\_\_、収容動物数\_\_\_\_）、非密封 RI 用施設（面積）\_\_\_\_、図書施設（収容人数 381 席、冊数\_\_\_\_）、講義室（数 13、総容人数 801 席）実習室（数 10、総収容人数 285 席）、自習室（数\_\_\_\_、収容人数\_\_\_\_）、その他（グループワーク室、358 席）、教育支援コンピューター室（数 3、合計 26 席）、大

学キャンパス外の教育支援施設の有無\_\_\_\_\_

教育研究運営資金の調達：総額€ 21,728,408

国（州など）（金額もしくは比率）€ 12,324,000、競争的資金（金額もしくは比率）、企業からの受託研究（金額もしくは比率）€ 3,364,356、寄付金（金額もしくは比率\_\_\_\_\_）、自己運用資産（金額もしくは比率\_\_\_\_\_）

## ② 動物病院

動物病院の規模：

スタッフ：教員数（大動物 21、小動物 27）レジデント数\_\_\_\_、サポーターイン  
グスタッフ数（事務職員\_\_\_\_、技術職員 56）、大動物診療室（数）4、  
小動物診療室（数）21、年間外来診療件数（大動物 2295、小動物 13821、  
エキゾチックアニマル 205、鳥類・魚類など 530）、年間入院件数（大  
動物 220、小動物 2775）、内科系処置室（数）\_\_、外科手術室（数 8、  
手術台数\_\_）、集中治療室（数）\_\_、救急獣医療施設の有無○、そ  
の他\_\_

高額設備の有無：レントゲン写真撮影装置○、超音波画像診断装置○、X線断  
層撮影装置○、X線照射装置○、MRI○、内視鏡検査システム○、  
核医学システム○、屋外運動場/プール\_\_、跛行検査場\_\_

診療科の分野の有無：内科○、栄養科○、皮膚科○、脳神経科○、  
眼科○、歯科○、外科○、腫瘍科○、麻酔科○、  
病理科○、画像診断科○、鳥獣・爬虫類○

財務内容（年間）： 寄付金（金額）\_\_\_\_、診療売上金（金額）€ 3,364,356

診療業務への学生参加：有無\_\_（大学病院\_\_、大学病院外\_\_：例えば、シ  
ェルターや一般の動物病院での実習）

社会へのサービス体制：分院の有無\_\_\_\_\_（目的：大動物臨床等）

診療車の有無○（目的：救急や大動物臨床等）

## 2) 教育課程：

教育年限：入学要件と終了要件（最低在学期間 6 年）

教育内容：カリキュラム（基礎獣医学、病態獣医学など）

教育時間数：単位数 360、可能であれば時間数 9720 時間

特例措置：（ダブルディグリー等、例えば DVM+Master of Veterinary Public  
Health など）\_\_\_\_\_

修士課程：（専攻、年数など 無）  
博士課程：（専攻、年数など Doctor of Veterinary Medicine（40 単位）  
Doctor of Philosophy（60 単位）、ともに4年～）  
教育に用いる言語：フィンランド語、英語  
その他：日本と異なる特別な科目等\_\_\_\_\_

学生への支援体制：  
授業料：（自国学生 無料、留学生 無料）  
授業料免除制度\_\_\_\_\_、宿舍の有無\_\_\_\_\_  
奨学金制度の有無（国\_\_\_\_、州\_\_\_\_、私立\_\_\_\_）  
留学生のための支援部署の有無\_\_\_\_\_

- 3) ① 昨年の就職状況：  
職種：大動物臨床\_\_\_\_、小動物臨床\_\_\_\_、公務員（農林省管轄\_\_\_\_、厚生省管轄\_\_\_\_）、民間企業\_\_\_\_（製薬会社など）、大学教員\_\_\_\_、その他\_\_\_\_
- ② 卒後研修：卒後研修に関するプログラムの有無\_\_\_\_（無の場合：獣医師会が実施？）  
卒後制度の内容：大学動物病院の利用の有無\_\_\_\_、（利用料金の有無\_\_\_\_）
- 4) 大学の特色もしくは教育研究で重要視している点は何か？
- ⑩ 国際的な獣医学教育の認証システムの有無：有
- ⑪ 平成21年10月に行われたOIE主催による世界の獣医学部長会議の方針への対応：対応
- ⑫ 大学の特色および教育研究の重要課題最近強化・改善した教育内容
- ・ 新型インフルエンザに関連した教育 ○
  - ・ 食の安全に関する教育 ○
  - ・ 人獣共通感染症に関するリスク解析と管理 ○
  - ・ 海外悪性動物感染症に関するリスク解析と管理 ○
  - ・ 遺伝子組み換え動植物に関する食品の安全性確保 ○
  - ・ 微生物汚染や化学物質汚染に関する食品の安全性確保 ○
  - ・ アニマルウェルフェアに関する取組み ○
  - ・ 野生動物の保護管理に関する取組み ○
  - ・ 動物実験に関する取組（AAALAC 認定など） ○
  - ・ その他\_\_\_\_\_

【ヘルシンキ大学獣医学部 写真資料】



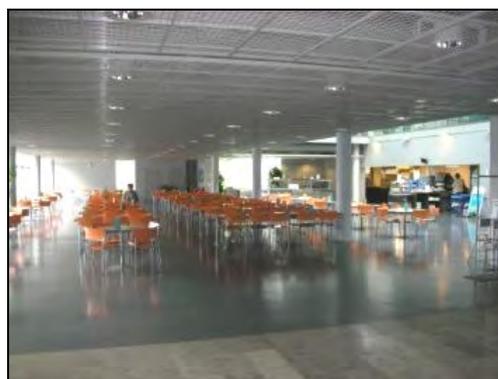
獣医学部全景 (Viikki キャンパス)



動物病院



基礎獣医学部門研究棟



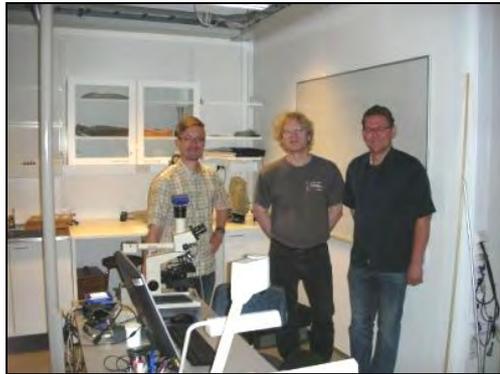
学生用カフェテリア



Sukura 学部長 (中央) と Ruohoniemi 副学部長 (右)



獣医学部玄関にて



Prof. Iivainanen 解剖学教授らと



組織学研究室



天井の高い解剖学実習室



病理実習室で試験中の学生



外科手術中の獣医師達



外科実習室内



犬の輸血用血液バッグ



獣医師と動物看護師達



小動物用の放射線治療装置



CT 撮影装置



馬の入院施設



動物病院長 Dr. J. Anttila



ヘルシンキ市の象徴 - ドーム